

## 「政治との関わり」

平成26年7月3日

一足先に梅雨明けした沖縄地方、連日、30度を超える猛暑日が続いております。これから本格的な台風シーズンが到来しますが、近年の台風は地球温暖化の影響？から超大型の勢力に発達する傾向が高く、ひとたび台風が通過すると、多くの地域で停電や建物の損壊が発生し、ひどい時には車が横倒しになるほどの猛烈な強風が長時間吹き荒れることもしばしば。

6月～9月にかけては少雨傾向が続くため、一昔前までは恵の雨をもたらす台風を歓迎したもの(本音は役所が業務停止になるので・・・)ですが、今では熱帯低気圧が発生するたびに不安を感じずにはられません。

沖縄に旅行を計画されている全国の組合員の皆様、仮に滞在時に台風に遭遇したとしても、それはそれで一生の思い出になると思いますよ(笑)。

前置きが少し長くなりましたが、このコラムを通じて全国の皆様に石垣市のことをお話したいと思っております。本市は、人口約48,000人の観光立市都市で、昨年、新しい空港が誕生したことにより観光客数がこれまでより20万人以上も増え、観光業界ではアベノミクスを凌ぐ第二次バブル期を迎えています。

中国が領有権を主張している尖閣諸島は、皆さんご周知のとおり本市の行政区域として、石垣島から北西に170km、小型の漁船で約6時間の位置にあります。1970年代、島に持ち込まれたつがいのヤギ2頭が野生化し爆発的に繁殖したことから、尖閣諸島固有の貴重植物が絶滅の危機に瀕しており、市は今月初旬、環境調査を目的とした事業実施のためプロポーザル公募を開始しました。業務内容には、航空機による画像・映像撮影も含まれており、中国からの圧力や批判にどう対応していくのか気になるところです。

さて、私達の組合は、現在、共済会員を合わせて100名程度と全国から見ればまだまだ小さい組織ですが、それでもここ4、5年で大分増えましたね。と言うのも、現職の市長が1期目の当選を果たすまでは、実に16年もの間、思想の異なる市長による市政運営が継続しましたので、その間は本当に数えるほどの加入者しか獲得できませんでした。今は、毎年、新規採用のユース世代が順調に加入してきており、労働運動における政治との関わりが如何に重要なのかを痛感させられております。これは、地縁血縁関係が濃い離島地域であることも大きな要因だと思われませんが、組織拡大の目的以外にも、自分たちの権利、主義、主張を政策の中に効率的に取り入れていく上で、志を同じくするリーダーである方が、交渉なり要求なり有利に働くことは間違いありません。

組織拡大は我々にとって永遠のテーマであり、オルグ活動を通じて自治労連の良さや魅力を伝え組合員獲得を図ることも大事ですが、労働組合活動の取組みとして積極的に政治に関わっていくことの大切さを改めて考え、各組織において議論してみてもいかがでしょうか？

石垣市職員労働組合 仲間 典登